

外国人患者へ態勢着々

県内病院

ラグビーワールドカップ(W杯)や東京五輪・パラリンピックを控え、医療現場では今後ますます外国人患者の増加が予想される。県内の病院では、外国人患者が安心して医療サービスを受けられるように態勢強化を着々と進めている。

ラグビーW杯、東京五輪向け



外国人患者(中央)と医師(手前右)のやり取りを支援する通訳人。外国人の支援に「役買っている」12月中旬、磐田市立総合病院

認証取得や多言語対応

近隣企業に勤める在り、J M I P 認証を得たことで今後の増加が想定される。聖隷浜松病院(浜松市中区)は、経済産業省の支援を受けた一般社団法人から、海外の渡航受診者の受け入れを推奨する医療機関にも活用している。一方で、治療費の未払いや日本の医療に対する理解不足からのトラブルが全国的に発生している現状がある。熊切医事課長は「県内でも世界的なイベントが近づく中、国や県を挙げて連携して医療体制を考える必要がある」と指摘する。(浜松総局・佐野由香利)

日本医療教育財団による「外国人患者受入れ医療機関認証制度(J M I P)」の認証を県内で初めて取得した。院内の案内表示に新たに英語表記を加え、通訳が不在になる夜間に対応可能な電話医療通訳サービスや74言語対応の通訳機を導入した。日本の医療制度を紹介する出前講座にも取り組んでいる。熊切峰男医事課長は「経験を積んだスタッフが対応慣れしていることも患者の安心感につながっている」と話す。外国人旅行者の患者受け入れはこの1年間で10人に満たないが、他の医療機関から要請されたケースもあ

り、J M I P 認証を得たことで今後の増加が想定される。聖隷浜松病院(浜松市中区)は、経済産業省の支援を受けた一般社団法人から、海外の渡航受診者の受け入れを推奨する医療機関にも活用している。一方で、治療費の未払いや日本の医療に対する理解不足からのトラブルが全国的に発生している現状がある。熊切医事課長は「県内でも世界的なイベントが近づく中、国や県を挙げて連携して医療体制を考える必要がある」と指摘する。(浜松総局・佐野由香利)